

付属文書

生活習慣病の発症リスクの軽減・食育について

<問題認識>

現在アジアを中心とする開発途上国では栄養不足が深刻であるにもかかわらず、糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病が確認されています。例えばスリランカでは、子供のころからの良質なたんぱく質・カリウムなどのミネラルを含む野菜の摂取不足が原因の一つであると考えられています。

こういった問題は経済発展の有無に関わらず、日本を含む世界中で見受けられるので、生活習慣病の予防はすべての人が取り組むべき問題です。

<私たちができること>

生活習慣病の予防について様々な国の政府も対策はしているが、スリランカをはじめとした多くの国で浸透していないと考えられています。そこで、若い人たちには同世代である私たちが、SNS等を活用するなどして生活習慣病の予防について興味を持ってもらえるように情報発信をする、生活習慣の大切さや、食習慣が健康に与える影響の大きさを伝える、そうしたことで、食の重要性を広めることができます。また、現在の健康問題を改善するために、みんなで楽しく行える食育の方法を考え、学校内外で実践することを始め、広めていきたいです。

<世界の人々へ>

生活習慣病の予防は、政府に頼るだけでなく、各個人が生活習慣病の予防・改善をしなくてはなりません。

そのためには、自分たちの食習慣の現状を把握し、その食習慣をどのように変えていくかを、自ら考えていく必要があります。国によって食文化や食習慣は異なるので、その国々に合った形を自分たちで調査し考え、自分たちに適したバランスの良い食習慣を実践することが大切です。

セルフケア<自分の健康に責任を持つこと>について

<問題認識>

日本では社会保障費、そして医療費の増加が財政を圧迫しています。日本の社会において、セルフケアの認知度が低く、多くの日本人が、セルフケアで治すことができる病でもすぐに病院に行く傾向があり、日本人の医療に対する意識には改善の余地があります。

<私たちができること>

現在、セルフケアの必要性が高まっています。セルフケアについて必要と思われる知識を収集し、冊子を製作するなどし、学校行事の機会などで配布することもできます。自分の症状に対して、今どのような医療行為が必要かがわかるようなフローチャートの作成などを行い、高校生自身の健康への関心を学校内から喚起していきます。

<世界の人々へ>

健康問題は個人個人で、また時期や年齢によっても様々です。

その中で、人々は自身の体調を自ら管理し改善していけることが求められています。なぜなら、医療費の高騰は世界共通の課題だからです。

そのために各国政府と私たちは国民の健康意識の向上のために必要な情報を伝える努力を積極的に行なわなければなりません。また、その時々に必要な情報提供や予防策などを迅速かつ臨機応変に行う必要があります。

AMR について

<問題認識>

世界中で AMR（薬剤耐性）被害が拡大しています。AMR が広がることで、治療が不可能な感染症が増え、世界に広がる危険性があります。

先進国においては、医療現場での AMR の伝播が危惧されています。また、一部の開発途上国においては、衛生環境の悪さや、抗生物質の不適切な使用により、AMR の伝播が促進されていると考えられています。

AMR の種類は日々増え続け、それに対応する抗生物質をすべて作り出すのは困難です。

<私たちができること>

まず現状の問題を正確に調べ、SNS 等を活用し、より多くの人に危機感を持ってもらうことができます。また、AMR に関する調査や研究を行う、私たち高校生が主体となり、企業や機関と協力し、衛生意識の改善を呼びかけるなど、AMR に関するキャンペーンの実施もできます。実際にベトナムに行き、農村の人々が AMR に関する教育を受けて衛生意識が改善されている様子を見ることができました。

<世界の人々へ>

AMR は、地球規模で取り組むべき課題です。各国が協力しあい、AMR の伝播を防ぐ方法を模索していく必要があります。例えば家畜での AMR 蔓延を防ぐために、抗生物質の使用基準を設けるなども重要です。抗生物質の開発に関しても、民間レベルでは限界があるため、国の支援が欠かせません。また、AMR に関する教育を実施し、個人での意識改革を促すことも重要です。一人一人が AMR に対する強い危機感を持ち、意識、行動を変えていくことが

重要です。

下痢性疾患について

<問題意識>

今現在、世界では約 24 億人の人々が適切な衛生設備を使用することが出来ておらず、約 6 億 6300 万人の人々が清潔で安全な水を使うことが出来ていません。汚れた水と劣悪な衛生環境が原因で、年間 50 万人以上の子どもが下痢のような単純な病気から深刻な脱水症状に陥り、5 歳の誕生日を迎える前に命を落としています。

<私たちが出来ること>

下痢性疾患によって命を落としている人々が世界に存在していること、この問題がどのくらい大きな問題なのかを知り、そのようなことを共有することが出来ます。

手洗い・煮沸推進ポスターや紙芝居、絵本を作り、国際協力を行っている機関・団体に協力することが出来ます。

<世界の人々へ>

下痢性疾患などによって命を落とす子供たちの数は減少してきています。しかし、依然として多くの子供たちがそうした疾患により亡くなっているという事実を忘れてはいけません。一人一人の意識の変化・全員が協力することによって下痢性疾患は大幅に減少します。みなさんで協力して下痢性疾患を 0 に近づけましょう。

感染症に対する危機感について

<問題認識>

日本人は感染症に対する危機感や予防意識が高いという統計があります。しかし、アンケート調査を実施したところ、身近な感染症に関する知識や危機感が欠如していること、感染症に対して、危機感ではなく、漠然とした不安を抱いているだけであることが明らかになりました。

その原因として、十分な情報が不足していること、また、不適切な情報に基づいて行動していることが考えられます。

<私たちができること>

感染症に対する危機感を高めるために、私たちが感染症に関する情報を手に入れ、そうして得た情報を学校での活動や SNS を通して伝えることで、感染症に対する正しい予防法や対策を伝えることが出来ます。また、そういった情報を家庭にも持ち帰ることを通じて、

親や地域の人々の感染症に対する意識を変えることができます。

<世界の人々へ>

グローバル化が進む今日、感染症は世界中に拡大する可能性があります。水際対策だけでは防ぐことは困難です。世界のどこに住んでいようと、自分、そして周りの大切な人々の健康を守るためには、正確な情報や、感染症に関する十分な教育が必要です。政府や私たちは感染症に関する正しい知識や情報を十分に入手できるよう、また教育を受けられるようにしなければなりません。そして何よりも、一人一人が感染症が自分たちにも関係しているものだであるとの認識が必要です。

「母子を支える新たなコミュニティづくりの提言」について

<問題認識>

現在日本では、少子高齢化・核家族化が進んでおり、世代間交流が少ないのが現状です。そうした状況下では母親の負担が大き過ぎるか、母親が親の介護と子育てを同時にしなければならないダブルケアという問題があります。現在、対策として日本の行政は子育て支援を行っています。しかし、それは十分であるとは言い切れません。

<私たちができること>

まずは、身近な問題として子育てに関心を持ち、母子に関する課題・需要を知ることができます。そしてそのようにして私たちが得た母子保健に関する情報を発信し、世代間における支え合いの重要性を世界中の人々に伝えることができます。さらにそうした問題を踏まえた地域社会の在り方を考え、行政に呼びかけることもできます。また、私たち若い世代は高齢者と母子の架け橋となることができます。例えば既存の公民館を利用して高齢者、子育て世代、子供達、そして地域の皆が集える場所を私たちが作りだし、地域全体で支える社会にしていく、いわゆる「新たなコミュニティづくり」を提案していきます。

<世界の人々へ>

まずは、ひとりひとりが地域での暮らしや母子保健の問題について関心を持つことが大切です。そして異世代間で母子を支え合う、既存の施設や人材を利用した地域全体で支える社会、先ほど挙げた「新たなコミュニティづくり」を目指していくことが重要です。

高齢化社会について

<問題認識>

現在、日本をはじめとする世界中で高齢化が進んでいます。政府は、高齢者に対する医療

費の高騰から行政の予算が逼迫し、少子化対策に資金がまわらないなどの経済問題を抱えています。また、老老介護など新たな問題もあります。

高齢化対策として、元気高齢者を増やす試みもありますが、やはり世代間での助け合いが大切です。しかし、高校生の高齢化への認識は甘く、高齢者との世代間交流も多いとは言えません。

これから先、高齢者の悩みを解決できる人がどんどん減っていきだろろうと考えられています。

<私たちができること>

まずは、SNS等を利用して、高齢化の現状や将来に対する知識を広め、危機感を持ってもらいます。また、高校生の高齢者に対する偏ったイメージをなくすために、高齢者のことを知り、理解してもらうよう学校内外での活動を促進します。

そして、高齢者が困っていることを聞き、自分にできることを生かして対応するとともに交流を図ります。他にも、日頃の挨拶、ボランティア活動、地域の行事への参加などを通して、高齢者との世代間交流を推進します。

<世界の人々へ>

医療費を減らして、少子化対策や住みよいまちづくりにまわす資金を増やすためにも、元気高齢者が増え、世代間での助け合いも増えることが望ましいです。

そのためには、お互いを理解し、尊重し合える関係づくりを目指すこと高齢者に対する考え方を換え、積極的に世代間交流を図る必要があります。自分の地域に誇りをもち、地域のイベントへの参加、日頃から挨拶を心掛けることを希求します。